科学研究費補助金研究成果報告書

平成24年 6月12日現在

機関番号:	12601
研究種目:	特定領域研究
研究期間:	2007 ~ 2011
課題番号:	19053001
研究課題名	(和文) 機能元素超構造解析
研究課題名	(英文) Nano-dopant superstructure analysis
研究代表者	幾原 雄一 (IKUHARA YUICHI)
	東京大学・大学院工学系研究科・教授
	研究者番号: 70192474

研究成果の概要(和文):

材料の界面・表面・転位などに局在する異種元素はしばしば材料全体の特性を大きく変える 役割を果たす.我々はこのような元素を「機能元素」と位置づけ、その存在位置・存在状態を 原子・電子スケールで理解することを主目的とした.本計画班では特に最先端の電子顕微鏡法 技術を中心とした粒界・界面・転位等の構造解析により界面機能元素の役割を明らかにするこ と、その知見を材料設計に展開することを行ってきた.

研究成果の概要(英文):

In the vicinity of the lattice defects such as interface, grain boundary, surface, and dislocation, dopants or impurities are often segregated, and they change the macroscopic properties of the materials drastically. We call these dopants "function providing elements". The purpose of this study is to reveal the atomic and electronic structures around "function providing elements" by combining advanced transmission electron microscopy and first principles calculations, to understand their role on the properties quantitatively and to obtain the guideline to design new functional materials.

交付決定額

			(金額甲位:円)
	直接経費	間接経費	合 計
2007年度	32,600,000	0	32, 600, 000
2008年度	22, 500, 000	0	22, 500, 000
2009年度	48, 700, 000	0	48, 700, 000
2010年度	36, 400, 000	0	36, 400, 000
2011年度	9,600,000	0	9,600,000
総計	149, 800, 000		149, 800, 000

研究分野: 工学 科研費の分科・細目: 材料工学 キーワード: 機能元素,電子顕微鏡,ドーパント,粒界,界面

1. 研究開始当初の背景

現代の高度技術社会はエネルギー問題、安 心安全の確保、環境保全、情報伝達などの分 野を問わず、常に高性能、高機能な新素材の 開発とともに発展してきた。人間社会がさら に高度化、複雑化するに伴い、材料の高性能 化、高機能化、精緻化、高信頼性に対する要 求は益々高くなり、これに応えることのでき る革新的な材料の創出が切望されている。し かし、現在、新規材料開発は広い意味での閉 塞状態に陥っている。これは、従来の材料開 発の多くが経験とノウハウに基づいて行わ れてきたことに起因しており、次世代の材料 創出の手法としてはもはや限界がきている ことを示唆している。また、これまでの新た な材料の開発もその多くが偶発的な発見・発

明に頼らざるを得なかったことも否めない。 この状況を打破するためには、材料機能を決 定している普遍的原理を解き明かし、それに 基づいた合理的な材料設計・開発を進めるこ とが唯一の方策となる。

本領域研究は、このような問題意識と動機 のもと、粒界や界面,表面などの格子不整合 領域に偏在し、材料物性に決定的な影響をあ たえるドーパント、すなわち「機能元素」の 役割を定量的に理解することで材料設計指 針を確立することを目的として立案された。

2. 研究の目的

本研究領域は、格子不整合領域におけるナ ノ機能元素の材料機能発現メカニズムを明 らかにし、材料設計・創出に応用する基礎・ 基盤を確立することを全体目的としている。 ナノ機能元素は、通常材料内部・表面におけ る局所的な領域に偏析するため、その実験的 検証にはサブナノレベルの高精度な構造解 析技術が必要不可欠である。そこで、本計画 研究では、高分解能透過型電子顕微鏡法 (HRTEM)、走查型透過電子顕微鏡法(STEM) などの最新電子顕微鏡技術を駆使し、ナノ機 能元素の構造を原子・電子のスケールから実 験的に検証し、機能発現の本質を明らかにす ることを目的としている。特に、STEM 法の 近年の進展は目覚しく、材料内部におけるド ーパント位置を単原子レベルで決定できる までに洗練されつつある。本研究班では、こ のような最新局所解析ツールを積極的応用 し、サブナノ領域の物性、機能特性発現機構 及びこれらの制御因子の抽出を行い、本領域 の理論、プロセス各班との綿密な連携の下に 研究を展開し、機能元素のナノ材料科学の学 理を構築することを最終目標としている。

3.研究の方法

ナノ機能元素を原子・電子レベルで定量的 に解析する基礎手法を確立し、バイクリスタ ルによるモデル材料、他の研究班で作製され た機能元素構造等の微構造解析を進める。具 体的には HRTEM、STEM などの最新電子顕 微鏡技術と、電子エネルギー損失分光法 (EELS)、エネルギー分散型 X 線分光法(EDS) などを併用する。本研究班の研究手法を以下 に列挙する。

超高分解能 STEM、HRTEM を用いた局所原 子・電子構造評価

STEM、HRTEM を超高分解能かつ高感度化 し、ナノ機能元素の原子・電子構造を決定 する手法を確立する。そのために、電子プ ローブをサブ Å サイズに絞り込むことを可 能にする収差補正装置を備えた STEM 装置 を用いる。さらに軽元素可視化のために新 規に開発した環状明視野 STEM 法を用いる。

2. 第一原理・半経験的理論計算によるサブ ナノ構造評価

STEM 等で決定された原子・電子構造を基 に、計算機内でナノ機能元素の構造を構築 し、機能特性発現等の起源について理論的 に解析する。そのために高速並列計算機を 用いてナノ機能元素の化学結合状態を定量 的に解析する。

3. STEMによる局所点欠陥、局所ひずみ解析 ナノ機能元素を多角的に解析する上で、 局所点欠陥、ひずみの情報は非常に重要で ある。そこで、独自開発した STEM の高角 度環状暗視野検出器を高度に制御する手法 を応用し、局所点欠陥及びひずみの解析を 行う。そのために検出器を高感度化し、超 高感度高角度環状暗視野検出装置を用いた

4. 研究成果

観察を行う.

本研究班の年度毎の主な研究成果は以下 のようになっている. 2007~2009 年度においてはドーパント可視 化法を共通試料の TiO₂ と Al₂O₃に適用し、表 面原子構造の完全決定(図 1:Science 2008) に成功するとともに、結晶粒界に偏析した機 能元素の三次元原子配列を解明することに 成功した(図 2:Nature Mater. 2009)。

Vacuum



図 1 TiO₂(110)面の表面構造, Science 2008



図 2:界面機能元素の単原子可視化, Nature Mater. 2009

さらに、A02 班、A03 班と連携して金/チタ ニア触媒界面の原子・電子構造を解析し、触 媒機能が発現するメカニズムを解明するこ とにも成功した(図 3 Phys. Rev. Lett. 2009)。



図 3: Au/TiO₂界面における機能発現機構の解 明, Phys. Rev. Lett. 2009

また 2010~2012 年には新規な軽元素可視化 法を開発し、格子不整合領域の酸素原子配列 を明らかにするとともに(Nano Lett. 2010)、 世界に先駆けて Li 原子と水素原子の可視化 に成功した (図4 Angew. Chem. 2010, APEX 2010, Nat. Mater. 2011, APL2011)。



図 4:水素の可視化, Nature Mater. 2011, APEX 2010

また,A03 公募班との連携より,ペロブス カイトの界面機能元素を制御することで絶 縁体中の界面で伝導性が発現することを見 出し(Nature Comm. 2010)、さらに粒界におい て機能元素同士が相互作用して形成される 超構造の原子構造と形成メカニズムを明ら かにした(図5 Nature 2011).



図 5: 粒界超構造の可視化, Nature 2011

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

- 〔雑誌論文〕(計 229 件)
- Z. C. Wang, M. Saito, KP. McKenna, L. Gu, <u>S. Tsukimoto</u>, AL. Shluger and *<u>Y. Ikuhara</u>

"Atom-resolved imaging of ordered defect superstructures at individual grain boundaries" Nature [479] 380-383 (2011).

- Y. Sato, T. Hirayama, and Y. Ikuhara, "Real-Time Direct Observations of Polarization Reversal in a Piezoelectric Crystal: Pb(Mg_{1/3}Nb_{2/3})O₃-PbTiO₃ Studied via In Situ Electrical Biasing Transmission Electron Microscopy", Phys.Rev.Lett., 107, 187601 (2011)
- R. Ishikawa, E. Okunishi, H. Sawada, Y. Kondo, F. Hosokawa and *<u>E. Abe</u>, "Direct imaging of hydrogen-atom columns in a crystal by annular bright-filed electron microscopy", Nature Mater., 10, 278-281 (2011).
- R. Huang, YH. Ikuhara, <u>T. Mizoguchi</u>, SD. Findlay, A. Kuwabara, CAJ. Fisher, <u>H.</u> <u>Moriwake</u>, H. Oki, T. Hirayama and <u>Y.</u> <u>Ikuhara</u> "Oxygen-Vacancy Ordering at Surfaces of Lithium Manganese(III,IV) Oxide Spinel Nanoparticles" Ang. Chemie-Int. [50] 3053-3057 (2011).
- Z. C. Wang, M. Okude, M. Saito, <u>S.</u> <u>Tsukimoto</u>, A. Ohtomo, M. Tsukada, M. Kawasaki and *<u>Y. Ikuhara</u>, "Dimensionality driven insulator metal transition in A site excess non-stoichiometric perovskites", Nature Comm., 1, 106-1-7, (2010).
- *H. Ohta, <u>Y. Sato</u>, T. Kato, S. Kim, K. Nomura, <u>Y. Ikuhara</u> and H. Hosono "Field-induced water electrolysis switches an oxide semiconductor from an insulator to a metal" Nature Comm. [1] 118-1-6 (2010).
- S. D. Findlay, T. Saito, *<u>N. Shibata, Y. Sato</u>, J. Matsuda, K. Asano, E. Akiba, T. Hirayama and <u>Y. Ikuhara</u>, "Direct Imaging of Hydrogen within a Crystalline Environment", Appl. Phys. Exp. 3, 116603-1-3 (2010).
- H. Hojo, <u>T. Mizoguchi, H. Ohta</u>, S. D. Findlay, <u>T. Yamamoto</u> and <u>*Y. Ikuhara</u>, "Atomic Structure of a CeO2 Grain Boundary: The Role of Oxygen Vacancies", Nano Lett., 10 (2010) 4668–4672.
- S.D. Findlay, <u>*N. Shibata</u>, H. Sawada, E. Okunishi, Y. Kondo, <u>T. Yamamoto</u> and <u>Y. Ikuhara</u>, "Robust atomic resolution imaging of light elements using scanning transmission electron microscopy", Appl. Phys. Lett., 95, 191913 (2009).
- *Z.C. Wang, M. Saito, <u>S. Tsukimoto</u> and <u>Y.</u> <u>Ikuhara,</u> "Interface Atomic-Scale Structure and Its Impact on Quantum Electron Transport", Advanced Mater., 21, 4966 (2009).

- *<u>N. Shibata</u>, S.D. Findlay, S. Azuma, <u>T. Mizoguchi</u>, <u>T. Yamamoto</u> and <u>Y. Ikuhara</u>, "Atomic-scale imaging of individual dopant atoms in a buried interface" Nature Materials 8, 654 - 658 (2009).
- *<u>Y. Ikuhara</u>, "Nanowire design by dislocation technology" Progress in Materials Science, 54, 770-791 (2009).
- *<u>N. Shibata</u>, A. Goto, K. Matsunaga, <u>T. Mizoguchi, T. Yamamoto</u> and <u>Y. Ikuhara</u>, "Interface structures of gold nanoparticles on TiO2 (110)", Phys. Rev. Lett., 102: 136015 (2009).
- *<u>N. Shibata</u>, A. Goto, S.Y. Choi, <u>T. Mizoguchi</u>, <u>T. Yamamoto</u> and <u>Y. Ikuhara</u>, "Direct imaging of reconstructed atoms on TiO2 (110) surfaces", Science, 322: 570-573 (2008).
- *<u>N. Shibata</u>, M.F. Chisholm, <u>A. Nakamura</u>, S.J. Pennycook, <u>T. Yamamoto</u> and <u>Y.</u> <u>Ikuhara</u>, "Nonstoichiometric dislocation cores in alpha-alumina", Science, 316 (5821): 82-85 (2007).

〔学会発表〕(計 451 件)

- 1. <u>Y. Ikuhara</u>, Invited talk, "Grain Boundary Dynamics and Atomic Structures in Ceramics", (Materials Science & Technology 2011 Conference) MS&T'11, Columbus, Ohio USA, October 16-20(2011)
- <u>Y. Ikuhara</u>, Invited talk, "ABF STEM Characterization of Light Elements in Ceramics", Microscopy & Microanalysis 2011, August 7-11, Nashville TN, USA (2011)
- <u>N. Shibata</u>, S.D. Findlay, <u>T. Mizoguchi</u> and <u>Y. Ikuhara</u>, "Direct imaging of individual dopant atoms in buried crystalline interfaces," 2011 MRS Fall meeting, Boston, 2011.11.28.
- Y. Sato, T. Mizoguchi, N. Shibata, T. <u>Yamamoto</u>, T. Hirayama, and <u>Y. Ikuhara</u>, "Atomic-scale investigations of nano-scale regions in electroceramics through scanning transmission electron microscopy" 5th Meeting of the International Union of Microbeam Analysis Societies (IUMAS-V), Seoul Olympic parktel, Korea, 2011. 5. 23.
- <u>Y. Ikuhara</u>, "Visualization of Light Elements in Ceramics and Three Dimensional Observations by Cs-corrected STEM", The 17th IFSM International Microscopy Congress(IMC17), Rio de Janeiro, Brazil, 19-24 September, 2010.
- 6. <u>T. Mizoguchi</u>, "Finding Structure-Property Relationships in Functional Materials by ELNES and First Principles Calculations"

The 17th International Microscopy Congress (IMC 17), Sep. 20th, 2010, Rio de Janeiro, Brazil.

〔図書〕(計6件)

- 1.<u>Y.Ikuhara and N.Shibata</u>, pp. 467-522 "Applicaion to Cermic Interface", in "Scanning Transmission Electron Microscopy: Imaging and analysis" (ed. By P. Nellist and S. J. Pennycook) 2011. Springer.
- 2.<u>柴田直哉、幾原雄一</u>(分担執筆)、"微構造観 察方法"および"粒界構造解析"、「窒化ケイ 素セラミック新材料—最近の展開—」日本学術 振興会先進セラミックス第 124 委員会編、内田 老鶴圃、p.262-288 (2009)
- 3.<u>幾原雄一</u>、"無機機能材料"河本邦仁編、東京 化学同人, p.37-p67 (2009)
- 4.<u>幾原雄一</u>、"現代界面コロイド化学の基礎 (第3版)"、p.212-5, 丸善株式会社 (2009)

〔産業財産権〕 ○出願状況(計0件) 〔その他〕 ホームページ等 http://nanodopant.com

6. 研究組織

- (1)研究代表者 幾原 雄一(IKUHARA YUICHI) 東京大学・大学院工学系研究科・教授 研究者番号:70192474 (2)研究分担者 溝口 照康(MIZOGUCHI TERUYASU) 東京大学・生産技術研究所・准教授 研究者番号:70422334 柴田 直哉 (SHIBATA NAOYA) 東京大学・大学院工学系研究科・准教授 研究者番号:10376501 阿部 英司 (ABE EIJI) 東京大学・大学院工学系研究科・准教授 研究者番号:70354222 着本 享(TSUKIMOTO SUSUMU) 東北大学・原子分子材料科学高等研究機 構・講師 研究者番号:50346087 佐藤 幸生 (SATO YUKIO) 東京大学・大学院工学系研究科・助教 研究者番号:80581991 (3)連携研究者
 - (0)